

2015 年 7 月 16 日

報道関係者 殿

訃報のお知らせ 7 月 14 日 堀場雅夫が死去(90 歳)

ホリハ・セイサクショ
(株)堀場製作所の創業者で初代社長の、堀場雅夫(現:最高顧問)が、肝細胞癌のため、7 月 14 日 18 時 54 分、京都府立医科大学附属病院(京都市上京区)において死去しました。(満 90 歳)
葬儀・告別式は近親者ですで行いました。喪主は長男、厚(あつし/当社会長兼社長)
後日、社葬を行う予定ですが、日時・場所など詳細は現時点未定です。決まり次第、ご案内
します。

氏 名 堀場 雅夫(ほりば まさお)
生年月日 1924 年(大正 13 年) 12 月 1 日(満 90 歳)/京都市出身
死亡日/死因 2015 年 7 月 14 日(火) 18 時 54 分/肝細胞癌のため

【経 歴】

(生年月日) 1924 年(大正 13 年) 12 月 1 日

(学 歴) 1946 年(昭和 21 年) 9 月 京都帝国大学 理学部 物理学専攻卒業
1961 年(昭和 36 年) 2 月 医学博士号取得

(職 歴) 1945 年(昭和 20 年) 10 月 堀場無線研究所創業
1953 年(昭和 28 年) 1 月 (株)堀場製作所設立、取締役社長就任
1978 年(昭和 53 年) 1 月 取締役会長就任
2005 年(平成 17 年) 6 月 取締役会長退任、最高顧問就任

(主な受章・受賞) 1982 年(昭和 57 年) 11 月 藍綬褒章受章
2006 年(平成 18 年) 3 月 米国ピッツコン・ヘリテージ・アワード受賞
並びに殿堂入り

(主な著書) 「イヤならやめろ！」(日本経済新聞出版社)
「仕事ができる人 できない人」(三笠書房)
「おもしろおかしく生きろ！」(PHP 研究所) 他

1924 年(大正 13 年)、京都市生まれ。1945 年(昭和 20 年)、京都帝国大学理学部在学中に堀場無線研究所を創業。学生ベンチャーの草分けと呼ばれる。国産初のガラス電極式 pH メーターを開発し、1953 年(昭和 28 年)、堀場製作所を設立する。社員に博士号の取得を推奨し、自身も 1961 年(昭和 36 年)に医学博士号を取得。「おもしろ おかしく」を社是として、ベンチャービジネスのモデルともいえる企業を作りあげた。1978 年(昭和 53 年)に会長、2005 年(平成 17 年)取締役を退任し最高顧問。

社長退任後は、京都産業情報センターや京都高度技術研究所の設立に尽力するほか、全国イノベーション推進機関ネットワーク会長、京都市ベンチャー企業目利き委員会委員長などを務め、地元にとどまらず全国の起業家の育成にも力を注いだ。

また、2006 年(平成 18 年)には、分析化学の世界で最も権威ある「ピッツコン・ヘリテージ・アワード」を欧米人以外で初めて受賞し、併せて 27 人目の殿堂入りを果たした。

【現職】(抜粋)

京都市生涯学習市民フォーラム 会長	’08～
京都市ベンチャー企業目利き委員会 委員長	’00～
京都市ベンチャービジネスクラブ (KVBC) 顧問	’85～
『京の美食委員会』 代表	’10～
京都大学 総長顧問	’08～
京都市立西京高等学校 学術顧問	’02～
国立大学法人琉球大学 顧問	’14～
(株)京都ニュートロニクス 監査役	’13～
(株)京都クオリア研究所 監査役	’11～



【元 役職】(抜粋)

全国イノベーション推進機関ネットワーク会長	’09～’15(現最高顧問)
科学技術振興機構(JST)イノベーションプラザ 京都初代総館長	’03～’09
京都商工会議所副会頭(現名誉議員)	’01～’07
京都科学機器協会理事長(現相談役)	’78～’08(～’92 会長)
(一社)京都経済同友会代表幹事(現特別幹事)	’75～’79
(公)京都高度技術研究所初代理事長(現最高顧問)	’88～’02
(財)京都産業情報センター(現京都産業 21)初代理事長	’78～’88
京都市工業試験場京都工試協会 会長	’81～’04
京都市 専門委員	’85～’00
京都大学思修館特任教授(現同館外部評価委員会委員)	’12～’15
京都ナノテク事業創成クラスター推進本部長	’02～’13
京都まなびの街 生き方探究館初代館長(現名誉館長)	’07～’10
(財)三和ベンチャー育成基金審査委員長	’83～’06
(社)下京納税協会会長(現顧問)	’84～’92
(任)日本科学機器団体連合会 副会長	’78～’08
日本新事業支援機関協議会(JANBO)代表幹事	’99～’06(’06～’09 会長)
明日の京都 文化遺産プラットフォーム理事	’10～’15
(一社)日本電気計測器工業会副会長(現顧問)	’85～’03
(任)日本分析機器工業会副会長	’73～’99
京都ロータリークラブ 会長	’73～’74
および、国際ロータリー第 265 地区(現 2560 地区)ガバナー等	他

【90 年の生涯】

1924 年(大正 13 年)堀場信吉 京都帝国大学教授の長男として京都市に生まれる。京都府師範学校附属小学校(現:京都教育大学附属京都小学校)に学ぶが 4 年生の時小児リュウマチを患い、中学・高校は気候の良い神戸の甲南中学(尋常科)・高校へと親元を離れる。持病が完治するとラグビーに熱中する。” トップスピードの時に素早く仲間にパスする” の経験が後に” 企業トップは最も活躍している時にこそ後進に道を譲る-50 歳社長定年説” の考え

方の基になる。また授業では物理、中でも原子核について興味を持つこととなった。原子核物理で権威の荒勝文策教授に師事することを志し、1943 年(昭和 18 年)京都帝国大学理学部物理専攻に入学し、同教授の教室に入った。が敗戦により、原子核物理の実験設備が進駐軍(GHQ)により破壊され研究が続けられなくなった。

そこで、自力で研究を続けるために 1945 年(昭和 20 年)京都帝国大学理学部在学中の 20 歳の時に『堀場無線研究所』を市内烏丸五条で創業。電気機器の修理をする傍ら電解質コンデンサーの研究開発を独学で行う。1950 年(昭和 25 年)に国産初のガラス電極式 pH メーターを自作開発し 3 年後の 1953 年、現 JR 二条駅南側の地に、京都財界人の出資を仰ぎ資本金 100 万円、社員 8 名で『堀場製作所』を設立。当時日本の政策の食糧増産で肥料製造時の品質管理に pH メーターの需要が増大。その資金を基に気体(ガス)分析装置など他の製品開発を行い品揃えを広げる。高度成長に呼応し公害問題が広がり排出規制の機運が高まり、空気・河川の測定機の需要が増加、中でも自動車の排ガス測定装置の市場が拡大。開発技術者の眼を持つ経営者として市場ニーズに素早く製品を提供し、設立 18 年目に上場を果たす。一方、社員に博士号の取得を推奨し、自身も 36 歳で医学博士号を取得。創立 25 周年にあたる 1978 年(昭和 53 年)、自論” 50 歳社長定年説”のもと、53 歳で社長を退任し会長就任。同年より地元京都の中小企業支援を、自身が会社設立時に経済人に支援してもらい育ててくれた地元に恩返しするため、京都市や産業界などを巻き込み”京都産業情報センター”の設立や、10 年後に”京都高度技術研究所”の設立に尽力しいずれも初代理事長として活躍。直近では”全国イノベーション推進機関ネットワーク”会長として全国のベンチャー支援に東奔西走すると共に関係省庁に働きかけ支援システムの構築を推進した。

その一方、生粋の”京都人”と自認する者として、京都の文化や学問の面でも次代への継承・将来の成長のためにも力を注いだ。2003 年中高一貫教育の西京高校が立ち上がった当初から学術顧問を担ったり、小学生の時にいろんな職業を疑似体験できる”京都まなびの街生き方探究館”では趣旨に賛同し初代館長となり、地元企業のモノづくりに触れる京都独自の体験学習システム推進にも取り組んだ。日本を代表するだけでなく京都人の誇りでもある京都大学の改革に参画していた。”京の美食委員会”の代表や、”明日の京都文化遺産プラットフォーム”理事など文化面でも推進役のひとりとして活動していた。このように、愛する地元京都の活性化と併せて日本の新事業創生にも積極的に参画した。また、”京都愛”の視点では、地元選出の政治家の応援も熱心に行っていた。党を超えての政治家個人個人への応援は経済人としては変わっているように映ることもあった。

分析計測業界の発展に寄与すべく業界団体の要職を長らく担ったことに加え、総じて地味なこの分野で研究を続ける若手科学者を支援したいとの思いから 2004 年(平成 16 年)”堀場雅夫賞”を創設し自費で支援金を提供し続けてきた。

自身の哲学である「おもしろおかしく」を社是に掲げ、ベンチャービジネスのモデルとも言われる企業を作りあげた。1982 年(昭和 57 年)藍綬褒章受章。2006 年には、分析化学の世界で最も権威ある「ピッツコン・ヘリテージ・アワード」を欧米人以外で初めて受賞し 27 人目の殿堂入りを果たした。2005 年取締役会長退任し最高顧問として後進を見守っていた。